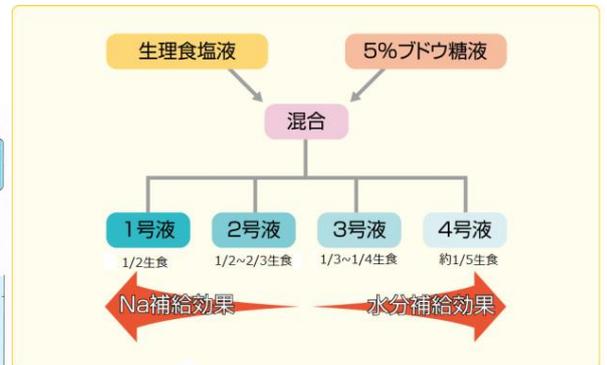
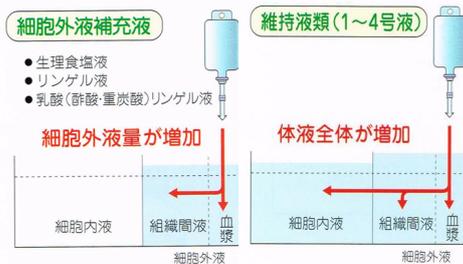


秋風が心地よい時節となりました。今回は 8 月に行われた NST 勉強会『輸液の使い分けについて』の内容をまとめました。

## 《輸液の目的と種類》

輸液管理の目的には①体液管理、②栄養補給、③その他（血管確保や特殊病態治療など）があります。

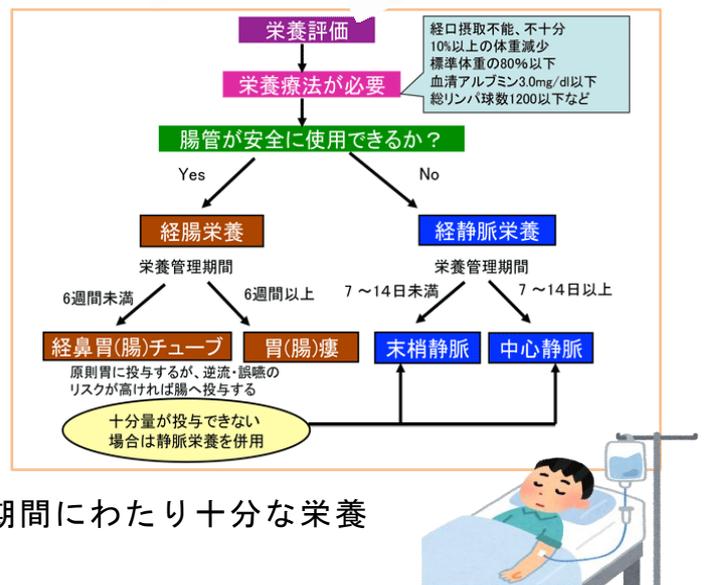
輸液は、血漿への水分補給目的の生理食塩液と、細胞内への水分補給目的のブドウ糖液の組み合わせが基本となっています。



## 《静脈栄養》

短期間の静脈栄養に広く用いられる末梢静脈栄養 (PPN:Peripheral Parental Nutrition) と、長期にわたり完全に近い栄養投与ができる中心静脈栄養 (TPN:Total Parental Nutrition) に大別されます。

末梢栄養は、生理的浸透圧の約 2 倍の濃度の輸液剤まで投与できますが長期間の施行は困難で、輸液量の制限もあり必要十分な栄養を投与することは不可能です。目安として 2 週間以内の経静脈栄養補給が必要な場合が適応となります。中心静脈栄養は五大栄養素（糖質、アミノ酸、脂質、ビタミン、ミネラル）を含み、完全に近い栄養投与ができる方法です。病態に応じた輸液組成で合併症に注意して施行すれば、長期間にわたり十分な栄養投与が可能となります。



## ★ミニテストの解答★

- Q . 末梢静脈の略語は何というでしょう? ⇒ A . ( P P N )
- Q . 細胞内修復液と呼ばれ、K・Mg・Pが多めに含まれているのは? A . ( 2 号液 )
- Q . 生食と 5 %ブドウ糖の 1 : 2 混合物で維持輸液剤と呼ばれるのは? ⇒ A . ( 3 号液 )
- Q . 病態不明な脱水症時に最初に使用しても安全な輸液剤で開始液と呼ばれるのは? A . ( 1 号液 )

次回の勉強会は、10/12（木）

「摂食・嚥下について」です。

とろみ食品の試食・試飲も行います。

食種検討の際に参考となりますので、ぜひご参加下さい！！



編集担当：  
薬剤部 大石